

第5回 早大ピアノの会 OB・OG 演奏会



2023年10月14日(土)

開場：13時00分 開演：13時30分

西新宿 ガルバホール

① 甲田舞(29代)

愛の挨拶(エルガー)

トルコ行進曲(モーツァルト)

①愛の挨拶(あいのあいさつ)

イギリスの作曲家(さっきょくか) エドワード・エルガーが、結婚前(けっこんまえ)に妻(つま)にプレゼントした曲(きょく)。

しあわせなオーラにあふれた曲です。

②トルコ行進曲(こうしんきょく)

オーストリアの作曲家ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトが、1700年代のヨーロッパで大流行(だりゅうこう)したトルコ軍隊(ぐんたい)の音楽(おんがく)をとりいれて作った(つくった)曲。ピアノ・ソナタの11番(ばん)、3楽章(がくしょう)です。

子どもが生まれ、しばらく練習も演奏することからも離れていましたが、久しぶりにこのような場所で演奏する機会をいただき、主催者の森田くんには本当に感謝しかありません。

今日は、わが家のこどもたちに身近な曲から2曲演奏させていただきます。

私の練習中には、ピアノのまわりで騒ぎながらも待ってくれた子どもたちと、たまーに、子どもを連れて出掛けてくれた旦那くん、ありがとう。

本番も飽きないで聴いてくれることを願います。

② 嶋田千恵(23代)

BORDER LINE(鬼束ちひろ)

1088(新田のん)

【鬼束ちひろ「BORDERLINE」】

2002年12月に発売された3rdアルバム「Sugar High」収録曲です。

音源はベーゼンドルファーのピアノを使用したとのことです。OB演奏会の案内を見た際に会場のピアノがベーゼンドルファーと知って、「これを弾き語るほかない!」と即決しました。

私はP会の現役時代、鬼束さんの楽曲のピアノ弾き語りで毎回演奏会に出ていました。

ただ、「BORDERLINE」は定期演奏会では演奏しませんでした。

この曲の伴奏は途中までは初見で爪弾ける程簡単だったのですが、どう締めくくることがとても難しいのです。

現役当時、その壁を超えることはできませんでした。

社会人になり練習に充てられる時間も限られてくる中で、得た気づきがあります。

本当に大切なのは原曲に近づけることなく、いかに自分なりに弾き語るかなのではないかと

ということです。

今の私には、現役時代のようなクオリティの演奏はとてできそうもありません。

ただ、今の自分ならば、かつての自分が越えられなかった壁を越えることができるかもしれない。

そう信じて、自分の中に無意識に作り上げた境界線に臨もうと思います。

— FEEL ACROSS THE BORDERLINE. —

【新田のん「1088」】

自作曲です。「新田のん」は私の音楽的な活動をするときの名前です。（私の大好きな、いすみ鉄道新田野駅から名前を取りました）

2019年7月下旬に約2か月の早産・出生体重1088gで生まれた娘に作った曲です。タイトルは出生体重に由来します。

娘は埼玉県立小児医療センターのNICUとGCUで約3ヶ月の入院を経て家に帰りました。

退院後、家で一緒に過ごす中でこの曲の構想がぼんやりと浮かび、娘が1歳になる少し前には大体形ができていました。

ただ、コロナ禍もあり人前で演奏する機会も全くないまま3年近く経って現在に至りました。

本人は今では4歳を迎え元気いっぱいの幼稚園児です。

見事な体さばきで遊具に登る姿を見る度、早産児であることを忘れそうな程に予想斜め上でモリモリ育っています。

これは本当にありがたいことだなあ、よかったなあとしみじみ思う今日この頃です。

すくすく成長する娘の前途が明るいものであるよう、願いを込めて。

あとは母である私自身が初心を忘れないでいられるように（笑）

※歌詞はスレズにツイート（違）してありますので、ご参照ください。

<https://www.threads.net/@nittanone/post/CulJCGkPiNp>

（編注：下記に歌詞を引用させていただきました。）

そんな感じで2曲お届けいたします。

1曲目はP会に居た頃の自分、2曲目は母となった自分の1面を映し出せるといいなといったところ です。

どうぞ宜しくお願い致します。

<歌詞>

あれは晴れた とてもとても暑い夏の日

新都心のど真ん中に 君が舞い降りた

不安なんてなかった 訳でもないけど

不安じゃなかった ずっと信じてた

必ず君にめぐりあえると

小さな手 ほっそりとした足
うっすら開けた目に映る世界は まだ真っ白
宇宙ステーションの片隅で眠りこける君
見えない壁があっても ちゃんと君の姿は見えてるよ
1088 はじまりの数字

寂しさなどなかった 訳でもないけど
寂しくなかった ずっと温もりがあった
離れて過ごす君を 想えば

小さな手 大きな黒い瞳
元氣よく上げた泣き声が 響く世界のハーモニー
宇宙ステーションの実験棟で遊ぶ君
少しずつ手狭になる箱 今日もほほえましく見守るよ
1088 遠ざかる数字

できることに限りがあっても
ひとつひとつできる瞬間が尊かった
また明日ね そう言えるのが
何よりの幸せだと あの時僕は知ってたよ
動く景色に溶けてゆく 大きなユリカゴ
そして 待ちこがれた日がやってくる

小さな手 ふっくらしてきた身体
はっきり開けた目に映る世界は これから虹色
宇宙ステーションの外へ 飛び出した君
新しい街での毎日を 君と一緒に生きてくよ
1088 はじまりの数字
1088 思い出の数字

③ 瀧本辰作(29代)
インテルメッツォ(ブラームス)

こんにちは、しゃかいじん 12 年生のたきもとしんさくです。これからブラームス 6 つの小品 Op.118 より 第2番「間奏曲”Intermezzo”」をひきます。
ピアノ小品集”Klavierstücke” op.118-op.119 はブラームス最晩年（当時 60 歳）の作品で、クララ・シューマン（当時 74 歳）に献呈されています。ブラームスは 57 歳の時に遺書を書き、作曲を断念

していましたが、クラリネット奏者リヒャルト・ミュールフェルトの演奏を聞き、創作意欲を取り戻しました。1893年に自然豊かなオーストリアのBad Ischl（バートイシュル）で作曲に取り組み、出版前にクララ・シューマンに何度か原稿を送って感想を受け取っています。出版社からは詩的な曲のタイトルを提案されていましたが、「残念ですが、モノローグ”Monologe”や即興曲”Improvisationen”は絶対に使えません。ピアノ小品集”Klavierstücke”以外に代替案はないと思います！」と断固拒否しています。

④ 川野史暁(27代)

アルゼンチン舞曲(ヒナステラ)

ヒナステラはアルゼンチンの作曲家で、本曲は彼が21歳の時に作曲した3曲で構成される中南米の舞曲になります。同じアルゼンチン出身のピアニストであるアルゲリッチの持ち曲としても有名です。

なお、ピアソラはヒナステラに師事してみたいです。

1 年老いた牛飼いの踊り

民族的な題材を用いながらもどこか前衛的な姿勢も見受けられる不思議な曲です。テンポの揺れと間を楽しむのが聴く上でのミソでしょうか。

2 粋な娘の踊り

哀愁漂う旋律線が素敵な曲です。日頃の疲れの癒やしにいいですね。

3 はぐれ者のガウチョの踊り

ガウチョとは「パンパ」と呼ばれる草原地帯で牧畜を営む、いわば南米版のカウボーイのことを指します（ビティナピアノ辞典より引用）。「パンパって昔地理の授業で習ったなあ。」とこのコメントを書きながら懐かしんでいます。とにかくエネルギーでノリノリ。まさに猪突猛進！土煙が舞ってそんな感じです。

奏者について

幹事の森田君からのお誘いもあり、久々に出演します。ピアノを弾く機会・時間もめっきり減りましたが、生涯スポーツならぬ生涯ピアノとして、細々と続けられればいいと思う今日このごろです。

⑤ 重松和人(32代)

バラード第4番 へ短調 p.52(ショパン)

酔っ払ったノリでエントリーしてしまいましたすみません。

⑥ 加藤喜市(27代)

ピアノソナタ第4番「はかなき人生」(スティーブン・ハフ)



※ 演奏曲目の楽譜の表紙絵 (カラヴァッジョ「聖ジェロームの執筆」)

⑦ 竹峰すみれ(36代)

マタイ受難曲より第15曲「コラール」(パッサ)

ガヴァットと6つの変奏(モー)

裕貴さんのスクリャービン・リサイタルを聴きに來たつもりが、裕貴さんの出番の前に弾くことになってしまい、狼狽しています。ともあれ、どうか裕貴さんが多忙等でキャンセルなされないことを祈っています。

⑧ 渡辺裕貴(33代)

ソナタ4番(スクリャービン)

ソナタ5番(スクリャービン)

ソナタ8番(スクリャービン)

33代の渡辺裕貴と申します。

今回は自分の好きな作曲家であるスクリャービンでいっぱいエントリーしました(笑)。

少し欲張りすぎかなとも思ったのですが、難しくて学生時代あまり手をつけられなかったので、今回の演奏会をモチベーションに頑張ってみようかと思いました。

最初 2 番、4 番、5 番でエントリーしたのですが、最近後期ソナタにはまっているので、2 番の代わりに、後期の中では比較的聴きやすいと思われる 8 番に変更しました。

8 番は、実際には 10 番よりも後に完成した最後のソナタで、スクリャービン本人はとても愛着を持っていたみたいです。

後期ソナタらしい不穏な雰囲気に加えて、神秘的な雰囲気も感じ取れます。

ただ、他の後期ソナタ同様、難易度の割に演奏効果は低くコスパは最悪です。

まさに真の好事家向けの曲だと思います。

練習してても満足いく演奏できたことがないので、最後まで悩みつつの演奏になると思いますが、後期ソナタの世界観を少しでも伝えられるように頑張ります。

⑨ 花崎祐(31 代)

3 つのノヴェレッテより第 1 番(ブーランク)

ピアノソナタ 第 23 番 「熱情」 Op.57 より第 3 楽章(ベートーヴェン)

2013 年に学部を卒業してもう 10 年になります。こうしてまたピアノを弾く機会に恵まれ嬉しく思います。

1 曲目はブーランクの小品です。爽やかな曲調なので、熱情の前にはいいのではと思い選びました。

2 曲目は超有名曲です。かつて同期の O 君の（叫びながらの）名演奏に衝撃を受け、以来大好きな曲です。練習不足ゆえ指回りが心配ですが、温かい目で見守って頂ければ幸いです。

人前でピアノを弾くのはコロナ前以来で大変緊張しますが、精一杯頑張ります。

⑩ 瀧本悠作(29 代-子)

25 の練習曲より 20 番「タランテラ」(ブルグミュラー)

トルコ行進曲(ベートーヴェン)

こんにちは、小学一年生のたきもとゆうさくです。これからタランテラとトルコこうしんきょくをひきます。

タランテラにはいろんなせつがあるらしいです。まず一つめはイタリアのおどりのきょくです。二つめはどくぐもにさされておどっちゃうきょくです。三つめは、テンポのはやいきょくです。

トルコこうしんきょくはあかるいきょくでトルコのこうしんのきょくです。トルコのおんがくたいはうるさいらしいです。

⑪ 森田亮介(29代)

3つの葬送頌歌より第3番「タッソーの葬送的凱旋」S.517(リスト)

今日にサヨウナラ(奥慶一)

「3つの葬送頌歌」は1860年～66年の間に作曲されました。オリジナルは管弦楽曲です。今回はこの中から第3番「タッソーの葬送的凱旋」を演奏します。が、残念ながらこのコメントを書いているのが10月13日午前4時。当日は大変な寝不足のため、演奏は失敗する可能性が高いです。しかし、せっかくベーゼンドルファーで一応録音をするので、なにか聴けるものを残しておこうと思い、急遽ごく簡単な1分程度の曲を追加で弾くことにしました(これもミスしそうですが…)。20年前のテレ朝のアニメ「おジャ魔女どれみ」の最も感傷的なBGMです。

「タッソーの…」に話を戻します。トルクアート・タッソーは1500年代後半に活躍した詩人で、「解放されたエルサレム」という叙事詩を残しています。第1回十字軍(1096年から始まったカトリックの聖地イスラエル奪回を目的とした軍事行動)を題材にしたフィクションですが、当時のヨーロッパで人気を博し、18世紀頃までゲーテなど様々な芸術家の作品のなかで取りあげられてきたとのこと。ただし、その内容中に敵であるムスリムにも肩入れするような描写があったために、タッソーはそれが一部のカトリック教徒から異端とみなされるのではないかと恐れて書き換え、そして書き換えてしまったことを大きな過ちと捉え、自分の良心と教義の間で板挟みになってしまい、精神を病んでしまったとのこと。現代とは比べ物にならないほど宗教が重要ですから、心中を察するに余りあります。

リストは若い頃、イタリアでゴンドラの船頭がこの「エルサレム解放」を題材にした民俗歌を歌っていることに感銘を受け、この歌を「ヴェネチアとナポリ(初稿)」に収録しました。この歌は曲集から独立し、後年に交響詩第2番「タッソー〜悲劇と勝利」、そして「タッソーの葬送的凱旋」に分化します。「ヴェネチアとナポリ」のその他の部分は「巡礼の年第2年補遺」として結実します。リストにはマリー・ダグーとの間に長女ブランディース、次女コージマ、長男ダニエラの3人の子供がいました。この内、1860年ごろにダニエラとブランディースが若くして立て続けに亡くなります。「3つの葬送頌歌」はこのために作られた曲で、1曲目「死者たち」はダニエラに、2曲目「夜」はブランディースに手向けられました。3曲目には明確な名宛人はいませんが、オラトリオ「キリスト」を手掛けるなど、この時期の彼の宗教へののめり込み具合を考えれば、彼自身のために作った葬送曲と解釈して良いでしょう。そこで彼がタッソーを持ち出したのは、タッソー自身はジレンマのうちに心がちぎれてしまったものの、何百年も後の時代の人々にも自分の良心のままに著したものが受容され、精神が受け継がれている栄光を手に行っているわけで、「自分もそのようになるのだ」という再誕の表明ではないかと思えます。

僕らも、コロナ以前と以後を比べてみると、それぞれ多くのものを失ってしまったように感じます。スキルを磨いたり、新しい友人を得たりということはもちろんありますが、ちょっと次元の違うことが僕らの身に起こっているように思います。戦争が始まったことで、全人類が共通して平和を失ってしまったし、それを発端に資源供給が不安定になり、経済が不安定になり、あるいはプライベ

ートな部分でも大切な人との関係を失ったり、健康を損ねたり、善悪や倫理を失ったりということもあるでしょう。何を失ったかさえわからないこともあります。戦禍に巻き込まれている人々を思えば、僕は平穏で贅沢な暮らしを享受しているのだとは思いますが、個人的には、あまりにも想定していた未来とかけ離れていて、まるで平行世界に迷い込んでしまったような気分です。しかし、生きていかねばならないのだから、失ってしまったことを嘆いてばかりもいられません。意図せぬ捨象を受けたとしても自分のまだ残っている部分だけで今まで見ていたものをもう一度見てみると、そこから全く新しいものが芽生えて来ることもあるのだと思います。

当日どのようなレベルの演奏ができるか全く保証できませんが、みなさんがなにかを失ったことを見ないふりさえていたことを思い出し、改めて傷つき、そして再生し、復活していくような、僕ら自身の葬式と新生の準備の10分間として受け止めていただければ。

⑫ 加納弘基(28代)

逆夢(King gnu)

この人生が逆夢ならいいのに

⑬ 城谷尚吾(30代)

Somebody To Love(Queen)

百鬼夜行-ひゃっきやぎょう(岡村尚道)

Tour(岡村尚道)

皆様、本当にお久しぶりです。お元気でしょうか。30代の城谷尚吾です。
会社で仕事をしながら、自作曲やカバー曲のピアノ弾き語りをライブハウスでしています。

2020年からはばらくは、ご存じコロナの影響で演奏ができませんでした。

またコンサートができることを大変嬉しく思います。

そして、森田さんを始めとした運営の皆様にお礼申し上げます。

せっかくですので近況を報告します。

① 仕事

2014年に新潟に引っ越して以来、変わらず安全規格という技術の仕事をしています。

文系なのになぜかエンジニアの仕事をしています。

流石に30歳を超えたので、実対応以外に色々なマネジメントを任されるようになってきました。ありがたい半分、実務に集中したい気持ちもあり、なかなか難しいですね。

基本は現職で頑張ろうと思っています。

② 音楽

2020 年から 2022 年までは、ひどいものでした。

みなさんご存知の新型コロナウイルスです。

ライブハウスでクラスターが発生した日を機に、私の周囲の環境は一変しました。

「音楽は不要不急」「ライブハウスはコロナウイルスのクラスターを発生させる場所」「あんな場所に行ってはいけません」etc…

一瞬にして彼らは悪者になり、まるでウイルスの巣窟のように扱われました。

ウイルスの特性上、他人との接触を避けざるを得ず、私の演奏活動は休止となりました。

極め付けは両腕をほぼ同時に怪我したことにより、物理的にもしばらく演奏はできなくなりました。

「ああ、神様が『音楽は諦めなさい』と言っているんだな」と、次第に演奏活動を止めることをこの頃に考え始めました。

しかし、休止中に聴いていた Aiyo などの DTM ミュージックがきっかけで「自分が弾けなくとも、ライブできなくとも、PC に演奏させて、ネットにあげれば活動はできるのではないか」と考えるようになり、DTM での作曲を我流で始めました。

そして 1 ヶ月に 1 曲作曲を目標に対応した結果、昨年どうにか 12 曲が完成したので、せっかくなら、と今まで作った曲も合わせてアルバムとしてリリースすることにしました。

私が大学生だった当時は音源を売るとすればインディーズレーベルに頼み込んだりライブ会場手売りしか方法がなかったのですが(無料で HP 上で公開する方法はあったと記憶しています)、今は Tunecore という素晴らしいサービスがあるので、全部自分で出来てしまいます。つくづくすごい時代になったものです。

こういう背景があり、今年 2023 年 3 月に、岡村尚道名義でアルバム'Let's Play DTM 2022'をリリースしました。1 曲を除いて DTM で作詞作曲編曲をしています。

以下 QR コードから音源先に飛べるので、よかったら聴いてみてください。

Apple music や Spotify、Amazon music でサブスクとして聴けます。もちろん音源購入も可能です。聴いていただけたら、これほど嬉しいことはありません。

※色々あって名前変えているので、

城谷＝岡村であることは隠してもらえると助かります^_^;



Let's Play DTM 2022

岡村尚道

Naomichi Okamura



<= カバーはこんな感じです。

ちなみに両腕は完治していません。症状は前よりマシですが、それでも練習したり、デスクワークをすると痛みが出ます。腹を括って、騙し騙し弾くしかありません。

前置きが長くなりました。いよいよ本日演奏する曲の紹介に入ります。

① Somebody to Love

ご存知ロックバンド Queen の有名な曲です。

第一回 Q 会コンサートで演奏した曲を、今回また演奏します。

映画「ボヘミアン・ラブソディ」の最初に流れる曲でもあり、いつも演奏する思い出のあるカバー曲であります。

この曲は、ライブハウスで出会った方が「とてもいい曲だから演奏してみなさい」とおっしゃったのがきっかけで、自分のレパートリーに入ることになりました。この曲がなかったら、私はピアノ弾き語りでロック調の曲はやっていなかったと思います。

前は暗譜が済んでいませんでしたが、今回は暗譜で挑戦します。

② 百鬼夜行

「ひゃっきやぎょう」と読みます。私が岡村尚道名義で 2018 年ごろ作詞・作曲した曲です。

Q 会コンサートでも一度演奏したのですが、その時は風邪をひいてしまい本調子ではなかったのが、今回リベンジしたく演奏します。お化けをテーマにした曲です。

歌詞は以下のとおりです。

人気もなくなった夜の道 日が暮れてしまった夜の道
幾百もの鬼達が 我が物顔で練り歩く

ウラシマタロウもモモタロウもない
念仏唱えて さあ逃げろォ

○夢と現実の狭間でスキマ
こじ開けて現れる 異形
ひび割れて崩れ去るジョーシキ
ヒトナラザルモノ 百鬼夜行

その姿はマボロシか 見えないフリをしているだけか
深々と底へ沈む夜 心の闇が鬼となる
嗚呼 草木も眠る丑三つ時に この世の中で誰を頼ればいい？
体は凍る 心は溶ける
ワタシハヒトカ ソレトモオニカ
鏡を見れば そこに映るのは
誰かのフリした 死んでいる目
空っぽの殻 狂々(くるくる)回る 来る
手酔い 足酔い 我酔いにけり
○くりかえし

カタシハヤ エカセニクリニ タメルサケ テエヒ アシエヒ ワレシコニケリ
光なき アヤカシ世界
列なり行くは 百鬼夜行

③ Tour

上記アルバム'Let's Play DTM 2022'に入っている曲であり、その中での唯一のピアノ弾き語り曲です。曲のテーマとなっているのは、劇団やツアーバンドなどです。

元々、今住んでいる新潟で毎年5月に新潟劇王というイベントがあり、そこに東京から、友人の劇団「平泳ぎ本店」が参加していました。

当然ながら余裕のある旅路ではないので、みんなで車に乗り合って高速道路で来るわけです。おそらく数時間かけて往復しているはずです。たった数十分の自分の演劇のために。

私は彼らに、執念と情熱を感じました。

バンドも一緒に、たった30分～1時間ステージのために、ハイエースに乗って、金欠、睡眠不足の状態ですべて全国を回っている人がほとんどだと思います。当然、聴いてくれる人がいる保証はありません。売れていないバンドマンなんてそんなもんです。

当然ながら、こんなバンドのような活動はいつまでもできる保証はないでしょう。

年齢を重ねればどこか体はおかしくなってくるし、年々睡眠不足に耐えられる体ではなくなってくるし、そして何より、世間体と嫉妬がどんどん迫ってくるわけです。

自分より年下の才能ある人間が自分より売れていて、それを平気で見ていられるバンドマンは、多分いないと思います。そして大半のバンドマンは就職せずに活動しているわけで、その横を、会社で出世していく同級生が過ぎ去っていくわけです。

結果、感情が爆発して、喧嘩別れで終わってしまう人もいます。

ですから歳を重ねてもツアーを回っているバンドが来た時には、私たちのようないわゆる「地元勢」は、尊敬の念を込めて、負けないよう一生懸命盛り上げる演奏をするようにしています。

おそらく、演劇や音楽ほどコスパの悪いものはこの世にはないのではないのでしょうか。

練習のために数時間、数万円かけて、ステージは一瞬。

ミスなんてしようものなら、2度と立ち上がれないのではないかと思うくらいの衝撃がくる。

趣味にしろ仕事にするにしろ、もっと効率よく楽しめて稼げるものは他にもあるはず。

しかし、演奏せずにはいられない。演じずにはいられない。

なぜなら衝動・情熱があるから。

この曲は、そんな人たちをテーマにした曲です。聴いて、気に入ってくれたら嬉しいです。

歌詞は以下のとおりです。

暗い夜の 高速道路を 光を辿る様に走ってゆく
自分の中の二等星の 「行け」という声に導かれて
「いつか終わる」そんな思いは 未来の自分に溶かして

嗚呼僕たちは 待ち望んでいる筈さ
繋がってゆくことを 伝わってゆくことを
何度でも

アドレス帳に 並んだ名前
数年も会っていない 懐かしい奴
「どこに消えた？」いつかステージの上で 会えると信じて

嗚呼僕たちも いつか眠る時が来る
けれども この場所 時
お前が立っていたこと 覚えている

「いつか終わる」そんな思いは 未来の自分に溶かして

嗚呼僕たちは 待ち望んでいる筈さ
繋がってゆくことを 繰り返す約束を

「また会いましょう」

暗い夜の 高速道路を 約束辿る様に走ってゆく

今日はどうも有難うございました。

また色々なところで皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

今後ともよろしくお願いいたします。

城谷尚吾(岡村尚道)

⑭ 茂木聖也(29代)

Tong Poo (Playing the Piano 2022)(坂本龍一)

Perspective (Playing the Piano 12122020)(坂本龍一)

■Tong Poo (Playing the Piano 2022)

1978 年、YMO のデビューアルバム"イエロー・マジック・オーケストラ"に収録された初期の代表作。これまで 2 台のピアノのためにアレンジされたバージョンはあったが、ソロピアノ版は初披露となる。原曲の印象的なイントロを省いていきなり主旋律から入り、その主旋律も繰り返されるごとに異なるアレンジが施されていく。長い中間部、左手で繰り返し弾かれるベースパートからは確かなグルーブが感じられ、それが終わると原曲のイントロ部を静かにそして確かなタッチで表現。この曲が持つ奥深さに改めて分け入ることができる。

(<https://special.musicslash.jp/sakamoto2022/ln-jp.html>)

■Perspective (Playing the Piano 12122020)

1983 年、YMO の解散ライブ「散開」の前に発表されたアルバム "SERVICE"の最後に収録された YMO としての事実上の最終曲。

2020 年 12 月 12 日に行われた一夜限りの無観客オンラインピアノコンサート「Ryuichi Sakamoto: Playing the Piano 12122020」で演奏された。

<歌詞>

Every day I open the window

Every day I brush my teeth

Every day I read the paper

Every day I see your face

In the gleam of a brilliant twilight

I see people torn apart
From each other
Maybe that's their way of life

Every day I ride in cars
Every day I watch TV
Every day I write my diary
Every day I go to sleep

In the gleam of a brilliant twilight
I see people torn apart
From each other
Maybe that's their way of life

Every day I open the window
Every day I brush my teeth
Every day I read the paper
Every day I see your face

Every day I ride in cars
Every day I watch TV
Every day I write my diary
Every day I go to sleep

⑮ 天海才(30代)

エチュード op.10-9(ショパン)
ソナタ第2番より第1楽章(ショパン)

皆さん、お久しぶりです。

社会人になると練習時間の確保も本当に大変ですが、せっかくの機会なのでショパンをチョイスしてみました。頑張ります。

天海

⑩ 片山隆(30代)

ピアノソナタ ロ短調(リスト)

こんにちは、片山隆と申します。早大ピアノの会では現役時代に第30代幹事長をやっておりまして、現在は、多摩地区のとあるバーで店長をやっておりまして、酒にまみれた日々を送っております。この度はこのような演奏の機会をいただけることと、酒の神様に感謝申し上げます。

さて、今回弾かせていただく曲ですが、この時代のピアノソナタとしては珍しくひと繋りの単一楽章で作られておりますが、多楽章構成的でもあり、一つの長大なソナタ形式的でもあり、二重構造的な作りになっております。弾く方はもちろん、聴く方にも気力と体力が必要ですが、映画の長いエンドロールだと思って、お席を立たず聞いていってくださると光栄です。

この作品はリストがイケイケなピアニストを引退後のワイマールの宮廷楽長時代に作曲したもので、作曲家として非常に充実していて、最も脂が乗った時期だと言えらると思います。

細かい曲の解説は省きますが、リストが心惹かれ様々な曲で描いてきたテーマの一つとしてゲーテの『ファウスト』があります。この曲もその一つとして解釈されることも多いのですが、私にはあまりそう思えません。たしかに、心惹かれているものとして、無意識に潜在的にそのような要素が入り込むことはあったのかもしれませんが、ですが、シューマンの『幻想曲』の返礼として書かれていること(私には両者は似た性格を持ちつつ対極にもあるものののように感じます)、リストの唯一何も表題がつかないピアノソナタであることから、音で何かを表現したものではなく、音による表現であると私には思えるのです。

語りはこの辺りにしておいて、本演奏会の締めくくりとして、精一杯演奏させていただきます。演奏会後の酒が楽しみです。

第二十一回
秋の樂会



早大ピアノ
阿修羅

2023/10/29（日）@ Tokyo Concerts Lab.

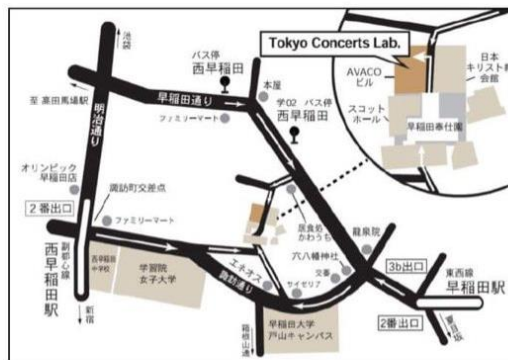
開演 12:00（開場 11:45）
終演 20:30（予定）
入場料 無料
問い合わせ asurapiano2@gmail.com
（代表：川畑）

「早大ピアノ阿修羅」とは.....

2003年、早大ピアノの会出身の有志4名により結成。
毎年一回、大曲から怪曲まで
縦横無尽のプログラムを繰り
広げる「秋の樂会」を中心に
活動している。詳細な情報は
公式 Twitter アカウントへ→



〈会場アクセス MAP〉



〈タイムスケジュール〉 ※プログラムは裏面をご覧ください。

- 第一部 12:00-12:50 スポーツの秋企画&「病は気から」企画
- 第二部 13:00-14:05
- 第三部 14:15-15:25
- 第四部 15:35-16:35 2022 追悼企画
- 第五部 17:00-18:05
- 第六部 18:15-19:20
- 第七部 19:30-20:25

画像（右）：歌川国芳 画『鎮西八郎為朝 痘瘡神』（東京誌料 778-C18）

早大ピアノ阿修羅 第二十一回秋の樂会プログラム

第一部	宮尾 幹成 川畑 哲佳 宮尾 幹成	服部 正／ラジオ体操第1、團 伊玖磨／ラジオ体操第2 チャールズ・アイヴズ／Some South-Paw pitching エリック・サティ／『スポーツと気晴らし』より「テニス」、セルゲイ・リャブノフ／ジュ・ド・ボーム Op.59-1 ベッタシオン＝ベリエル／ローンテニス Op.16-3
	宮尾 幹成 岡崎 卓巳 井川 弘毅	坂本 龍一／MINAMATA、ガブリエル・デュボン／『病める時』より「医者」、「死神がうろついている」 アタナシウス・キルヒャー／タランチュラの解毒剤、ルーズ・ランゴー／『昆虫館』より「ハサミムシ」、「シバンムシ」 ジョルジュ・リゲティ／『練習曲』より第9番「眩暈」
第二部	後藤 惟 森原 百合 細谷 拓海	フランツ・リスト／Und sprich, S.329、Hohe Liebe, S.307、Seliger Tod, O Lieb, S.540b・deleted version、 Prière d'un enfant à son réveil, S.171c・deleted version、Schnitterchor 'Pastorale – Schnitterchor aus Prometheus', S507a アリストター・ヒントン／Après un autre rêve?... ジャン＝ミシェル・ダマーズ／ソナチネ ヨーゼフ・シュトラウス／憂いも無く Op. 271、ガブリエル・レナ・フランク／ソナタ・アンディーナ より 第2楽章 「インカ賛歌」、野村 誠／たまごを持って家出する、梅本 佑利／萌え ² 少女
	永岡 映伶奈 宮尾 幹成 木村 美香 高畑 麻莉恵 岡崎 卓巳 加藤 喜市	アンリ・デュティユー／『波のまにまに』より 第1曲「子守唄の前奏曲」、立って眠るための小曲、ブラックバード マデリーン・ドリリング／『色彩組曲』より「ピンク・マイナー」、「ブルー・エア」、カリビアン・ダンス ウィリアム・ベインズ／Tides より 第2曲 Goodnight to Flamboro アルベルト・ヒナステラ／アルゼンチンの童謡によるロンド Op.19 ヘイノ・カスキ／夢 Op.19-1、ウルマス・シサスク／『銀河巡礼』第一集「北半球の星空」Op.10 より 第1曲 みずがめ 座・夢、エリック・サティ／夢見る魚 W.A.モーツァルト（岡崎 卓巳 編曲）／『ガリマティアス・ムジクム』K.32 より「田園詩」 Lamb／Górecki (edit)、ジョルジュ・リゲティ／3つのバガテル スティーヴン・ハフ／ピアノソナタ 第4番「はかなき人生」
第四部	小松 悟 細谷 拓海 川畑 哲佳	ウルマス・シサスク／『銀河巡礼』第二集「南天の星座」より 1. カメレオン座「群がり」、5. ケントウルス座「啓発」、 14. とも座「静けさ」、15. ほ座「嵐」、16. りゅうこつ座「一陣の風」、23. さいだん座「増殖」、 24. かじき座「霧の中の悦び」、25. とけい座「膨張」、26. レチクル座「永遠ー永遠の彼方へ」 ネッド・ローレム／『しずかな午後』より 第5曲「ロンサム・ワルツ」 野田 暉行／『こどものアルバム』より 第10曲「夕暮れ」 ハリソン・パートウィッスル／Variations from the Golden Mountain、一柳 慧／タイム・シークエンス
	不破 友芝 井川 弘毅	クリストバル・ハルファテル／Sonata para piano、Cadencia para piano solo（1993年改訂版） ジャン・バラケ／ピアノソナタ
	宮尾 幹成 川畑 哲佳 荒井 幸司	坂本 龍一／20220302～sarabande、20220302、20220404 カイヤ・サーリアホ／バラード、ジョルジュ・リゲティ／インヴェンション、松平 頼暁／モルフオジェネシス II オルガ・ノイヴィルト／Marsyas オットリーノ・レスピーギ／『グレゴリオ旋律に基づく3つの前奏曲』より 第1曲 カイホスルー・ソラブジ／Opus Clavicembalisticum II. Preludio-corale [Nexus]
第七部	多喜乃 実可 石川 稜 若井 研介	アナトーリ・リャードフ／2つのマズルカ Op.15、レインゴリト・グリエール／3つのマズルカ Op.29 より 第1曲 イーゴリ・ストラヴィンスキー／『ベートル・シュカからの3楽章』より「謝肉祭の日」 ニコライ・メトネル／ピアノソナタ 第1番 Op.5

早大ピアノの会 第5回 OB演奏会

2023年10月14日(土) 開場:13:00 開演:13:30 終演:17:30

場所:ガルバホール(西新宿6丁目)

第1部 13:30 - 14:20

- ① 甲田舞(29代) / 愛の挨拶(エルガー)
トルコ行進曲(モーツァルト)
- ② 嶋田千恵(23代) / BORDER LINE(鬼束ちひろ)
1088(新田のん)
- ③ 瀧本辰作(29代) / インテルメッツォ(ブラームス)
- ④ 川野史暁(27代) / アルゼンチン舞曲(ヒステリア)
- ⑤ 重松和人(32代) / バラード第4番 へ短調 p.52(ショパン)

第2部 14:30 - 15:20

- ⑥ 加藤喜市(27代) / ピアノソナタ第4番「はかなき人生」(ステーブンス・ハフ)
- ⑦ 竹峰すみれ(36代) / マタイ受難曲より第15曲「コラール」(バッハ)
ガヴォットと6つの変奏(ラモ)
- ⑧ 渡辺裕貴(33代) / ソナタ4番(スクリャービン)
ソナタ5番(スクリャービンス)
ソナタ8番(スクリャービン)

第3部 15:35 - 16:30

- ⑨ 花崎祐(31代) / 3つのノヴェレッテより第1番(プーランク)
ピアノソナタ第23番「熱情」Op.57より第3楽章(ベートーヴェン)
- ⑩ 瀧本悠作(29代-子) / 25の練習曲より20番「タランテラ」(ブルグミュラー)
トルコ行進曲(ベートーヴェン)
- ⑪ 森田亮介(29代) / 3つの葬送頌歌より第3番「タッソーの葬送的凱旋」S.517(リスト)
- ⑫ 加納弘基(28代) / 逆夢(Kinggnu)
- ⑬ 城谷尚吾(30代) / Somebody To Love(Queen)
百鬼夜行-ひやつきやぎょう(岡村尚道)
Tour(岡村尚道)

第4部 16:40 - 17:30

- ⑭ 茂木聖也(29代) / Tong Poo (Playing the Piano 2022)(坂本龍一)
Perspective (Playing the Piano 12122020)(坂本龍一)
- ⑮ 天海才(30代) / エチュード op.10-9(ショパン)
ソナタ第2番より第1楽章(ショパン)
- ⑯ 片山隆(30代) / ピアノソナタ ロ短調(リスト)

※終了後、同会場にてささやかな懇親会を開催します。どなたでもご自由にどうぞ。